



「蛸フライと多幸の予感」

～意味はあとからつながる 新しい年の歩き方～

校長 森角 由希子

あけましておめでとうございます。寒さの中にも凛とした空気が漂うこの季節、皆さんはどのような新年を迎えたでしょうか。新しい年が皆さん一人ひとりにとって実り多き一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

さて、お正月といえば「初夢」。古くから「1月2日の夜に見る夢が初夢で、よい夢を見ると一年がよい年になる」と言われています。室町時代には、宝船や七福神など縁起の良い絵柄が描かれた「初夢枕札（はつゆめまくらふだ）」を枕の下に敷いて眠る風習がありました。地方によっては神棚に祀り、一年の幸せを願うこともあったそうです。この札には「長き夜の 遠の眠りの 皆目覚め 波乗り船の 音の佳き哉」という歌が添えられており、上から読んでも下から読んでも同じになる廻文になっています。悪い夢を見たときは「逆夢（さかゆめ）」と捉え、ひっくり返して吉とする意味が込められているのです。寝る前にこの歌を三度唱えると、よい夢が見られるとも言われています。

私の母は、夢の話をよくします。たいていは忘れてしまうですが、印象に残る夢は不思議な内容ばかり。最近聞いたのは、旅行先で「蛸のフライ」に出会った夢。イカのフライはよく見かけますが、蛸のフライは珍しい。お土産として買ったものの、翌日帰る予定に気付き、どうしようかと慌てているうちに目が覚めた、というものでした。

夢の出来事は、時に現実と不思議なつながりを見せることがあります。後になって「あれは正夢だったのかも」と思うこともあるでしょう。夢は、点と点があとからつながり、思いがけない形で答え合わせができることもあります。

こうした夢の不思議さは、私たちの日常にも通じるものがあります。今はわからなくても、やがて意味をもつ出来事になることがあります。日々の経験や出会いは、すぐに成果が見えなくても、後になって自分の中でつながり、大きな力になります。新しい年の始まりにこそ、目の前のことと丁寧に向き合い、一つひとつを前向きに受け止める姿勢を大切にしてほしいと思います。

ちなみに、蛸には「多幸（たこう）」という意味があるそうです。蛸の夢は「たくさんの幸せが訪れる」予兆かもしれません。母は夢の中で蛸フライを食べ損ねていましたが、私は「今年はよいことがたくさんあるかも」と、前向きな気持ちになりました。

結びに、あらためて保護者・地域の皆様には、謹んで新年のお慶びを申し上げます。教職員一同、力を合わせ、精一杯教育活動に精進してまいりたいと決意しております。今年も、桜木中生の健やかな成長を願ってお力添えいただきますようお願い申し上げます。

